



ほうき 議会だより

第**55**号
2018年
10月25日



あさひ保育所 運動会 (八郷小学校 体育館)

おもな内容

- 初の「町民と語る会」開催報告…………… 2～3ページ
- 平成29年度一般会計決算…………… 4～5ページ
- 全員協議会・決議…………… 6ページ
- 議会広報常任委員会行政調査報告…………… 7ページ
- 一般質問…………… 8～15ページ
- 議会の虫めがね、編集後記…………… 16ページ

人の動き

	平成30年10月1日現在	前年同月比
人口	10,987 人	△141人
(男)	5,248 人	△56人
(女)	5,739 人	△85人
世帯数	3,827 世帯	5世帯



伯耆町議会主催 第1回

初の「町民と語る会」

スタート！～開かれた議会を目指して～

8/9 (木) 溝口公民館 (参加者12人)

8/10 (金) 岸本公民館 (参加者2人)

【趣旨】

伯耆町議会として初めて実施する「町民と語る会」で、まだ試行錯誤の部分もあるが出来る限り議会の仕事をわかりやすく町民の方に理解していただく機会を設けた。議会と町民との間の距離を縮めて議会を身近に感じていただくような取り組みをしていきたい。



今回の「語る」テーマ

- 伯耆町議会基本条例、議会議員政治倫理条例の概要説明及び質疑
- 議会に対する要望・意見

【議会基本条例及び政治倫理条例に対する質問】 (質問) (回答)

伯耆町議会基本条例の提出先が不明。町民に分り易い表現にしてほしい。

条例提出先は基本的に議会。分り易さを今後の課題として議会として取り組んでいく。

議員が代表者に就任できる「身近な公益団体」というものは何か。

自治会長など身近な公益団体は要件を緩和している。就任できない例：補助を受けている団体の運営などの決定権がある代表者
就任できる例：区長、集落単位の農事実行組合代表など

前回の選挙で無投票だったが定数の見直し検討の結果、定数維持とされたことが解せない。

「伯耆町議会に関するアンケート」を実施したところ「減員」と「定数現状維持と増員」の数が拮抗しており、現状維持と判断した。

議会だよりをもう少し見たくなる工夫をしてほしい。

広報クリニックなどの研修会に参加し指摘を受けながら、多少の変更をかけ、改革を進めている。

議員年金が問題になっている。また政務活動費の不正流用も他ではあるようだが、伯耆町はどうか。

議員年金制度は平成23年に廃止されているが既得権があり、今現在も受給者の費用を町費で負担している。政務活動費はない。

【質問に対する執行部からの回答】

日野川をはじめ、国および県の管理河川内の河床整備に対して現状どのように対応されているか。

国土交通省が管理している日野川については、日野川水系改修促進期成同盟会から毎年、国土交通省に要望活動をしており、国土交通省におかれても、今後、堤防整備や河床掘削などにより流下能力の向上を測るよう計画されております。鳥取県が管理している河川についても、毎年、公共要望、単県要望を行っており、護岸整備や河床掘削、伐開を順次実施していただいております。

大坂添谷線（大坂富江の間）の立木伐採等について、すでに要望が出ているとのことだが、対応状況はどうか。

道路沿いの立木伐採について、幹線道路や生活道路バス路線を優先して順次実施しているところであります。要望のあった町道大坂線について、集落で維持管理をお願いしている路線ではありますが、集落での対応が難しい立木については、直営にはなるかと思っておりますが、伐採を実施するよう計画しております。

【その他、町民からいただいた主なご意見】

- 町民へ近づこうとする努力が見える。
- 電話相談室など気軽な問い合わせができる仕組みづくりをしてみたい。
- 岸本地域と溝口地域に特に格差を感じる。議会として格差問題について本気で審議して欲しい。
- 若者が起業したいというときの町独自の活性化策を考えてもらいたい。
- 「伯耆町を考える会」などの住民でもチームを作り、活動していかなければならない。
- 地域活動も高齢者ばかりで若者が参加しない。
- 公民館などで健康相談所や、健康活動などをしたりなど、健康の推進がまちおこしにつながるのでは。
- 町民と語る会を継続していくべき。

参加者のひとこと（抜粋）

- 苦言、意見は宝物だと思い、受け止めてがんばってほしいと思います。
- もう少し小さな単位での「語る会」の方がいい。
- わかりやすい説明を心掛けてください。（文章だけでは理解しにくかったです。）
- 溝口地区の活性化をはかってほしい。特に「鬼の館」の利用促進。

町民の皆様、ご参加いただきまして誠にありがとうございました。皆様のご意見を参考に、これからも伯耆町発展のために議員一同、邁進してまいります。今後も多数のご参加をお待ちしています。

次回、「町民と語る会」開催日程が決まりましたら、改めてご案内いたします。さらに詳しい内容はホームページにて掲載。
伯耆町議会 検索

○伯耆町議会による住民説明会及び意見交換会は、自治会・10人以上の団体からの要請があれば、開催できます。ぜひ、気軽にお声掛けくださいませ。

平成29年度一般会計決算を認定（H30.9.21）

平成29年度一般会計決算のあらまし

歳入

74億4千500万円
前年度対比5.3%減

歳出

72億1千300万円
前年度対比5.9%減

主な事業

※ 実質単年度収支は3千400万円の黒字

（翌年度繰越財源調整後）



溝口放課後児童クラブの
新設



子育て支援センターの
移転拡充
（岸本保健福祉センター内）

平成29年度予算決算常任委員会（決算）審査意見

平成29年度決算に関する審査意見

- 1 字代の多目的グラウンド、おにっこランド、鬼ミュージアムの今後の活用策及びこれに伴う維持費（電気料金の契約見直しなど）を検討されたい。
- 2 基本健診事業において、インターネットによる予約や照会などが可能なものは、それに向けてのシステム構築について検討されたい。
- 4 健康ポイント事業については鋭意努力されているが、この二カ年微減及び横ばいの傾向が見受けられる。今後、健康ポイント対象事業の拡大等も含め健康増進に努力されたい。
- 3 各種健診に鋭意取り組みられ、その成果も受診率等の数字にも反映されている。この健診未受診者の問題は、懸案の課題であり、その対策として文書通知等の適切な対応をされていることは承知しているところであるが、町民の健康維持向上のためにも、さらなる努力を傾注されたい。
- 5 ナラ枯れ対策の効果をすぐに見極めることは難しいと考えるが、国費の投入要求も含め、粘り強い対応を求めるものである。
- 6 植田正治写真美術館の契約書、覚書の見直しに引き続き努力されたい。
- 7 次の事項については、鋭意邁進され、その成果を上げられたことを高く評価する。
 - (1) 公共施設の老朽化、長寿命化、改築、改修、改良などに積極的に取り組まれたこと。（町道改良、溝口保育所の長寿命化計画、本庁舎、分庁舎の老朽化対策、溝口体育館の長寿命化、給食センターの改修計画、溝口放課後児童クラブの改築、ニヶ町クリーンセンター基幹改良）
 - (2) 普通交付税、特別交付税が、減額となる中、健全財政化への方向性（実質公債費比率の減少など）が堅持されていること。
 - (3) 自主財源である町税徴収において、努力され効果を上げられたこと。
 - (4) 「フィットネス&スタジオ パル」は、地域おこし企業人や地域おこし協力隊などの活用を行い運営され、この運営は、伯耆町社会福祉協議会が自主運営することとして事業展開され、町民の健康増進、健康寿命の延伸に寄与していること。
 - (5) 子育て環境が整備され、（子育て支援センター移転拡充、乳児家庭保育支援事業、放課後児童クラブの各エリア整備完了）転入者増にも好影響を与えていると推察されること。

平成29年度事業を現地確認

教育施設など新設・改修を中心に予算が執行されました。



溝口福祉センター
改修



溝口体育館の
改修



根雨原公民館の
新設



お試しサテライトオフィスの導入
(溝口分庁舎6階)



別所川溪流植物園
管理棟の改修



空屋対策

みんなが知りたい

全員協議会

平成30年度9月定例会（全員協議会）は
8月30日・9月20日に開催。

WCS（ワーキングコミュニティスペース）の説明

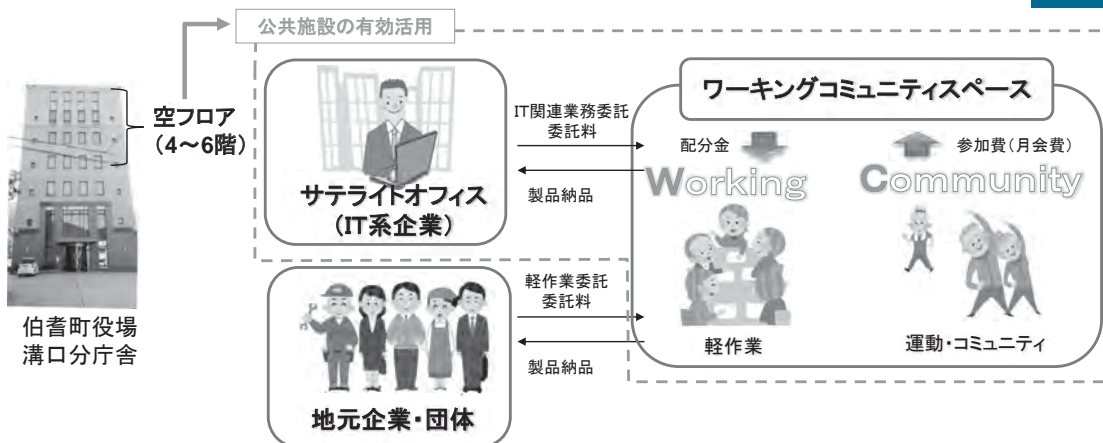
地域の課題とWCSの目的

地域の課題

- 人口減少
- 高齢化の進展
- 労働力不足
- 公共施設の有効活用

WCSの目的

- 健康増進、コミュニティの場を提供
- 高齢者の仕事の場をつくり、所得を拡大
- 地元企業の経費削減と人手不足を補う
- 溝口分庁舎の有効活用を行う



2025年国際博覧会の誘致に関する決議

2025年に「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとする国際博覧会を大阪・関西が一体となって開催することは、大きな経済効果をもたらすとともに、全世界に向けて圏域の存在感を示す絶好の機会となり、極めて大きな意義がある。

また、このような国際博覧会の開催は、鳥取県における産業振興や観光文化交流等を促進するとともに、本県を訪れる外国人観光客の増加による経済波及効果が大きく期待できる。

よって、本町議会としても、大阪・関西における国際博覧会の開催を支持するとともに、誘致実現に向けた誘致活動を支援し、協力する。

以上決議する。

平成30年9月21日

鳥取県西伯郡伯耆町議会

議会広報常任委員会行政調査報告

議会広報編集・作成技術向上及び有効な
情報発信方法等について

調査期間 平成30年7月9日から同年7月11日まで（3日間）
行政調査委員 一橋信介委員長、長谷川満副委員長、
幸本元、乾裕、杉本大介、森下克彦（計6委員）



○新聞レクチャー
■担当官 記者 川崎正太郎氏
全国農業新聞編集部（ハングドブックをもとに、「編集コンセプト」「新聞づくりのポイント」「取材の仕方・記事の書き方」「紙面レイアウト」を解説。記者の実体験を交えて新聞づくりのノウハウを学ぶ。

平成30年7月9日
全国農業会議所にて発行される
全国農業新聞について研修・調査



○調査のまとめ
・情報活動の意義を基礎から学び、興味深く読める媒体構成を学ぶ。
・瞬発力のある「旬」で伝わりやすいタイムリーな記事作成の大切さを知る
・紙面の独自性を伸ばし、今後の議会だよりに大いに反映していく。



○講義
講師 金井茂樹氏
（自治体広報広聴研究所代表 広報アドバイザー）
【研究分野】自治体広報広聴論、世論調査、テキストマイニング、広報誌など
伝える議会報づくりのヒント
～編集方針の策定と活用のすすめ～
編集方針の重要性／企画編集の技術のポイント／議会関係法改善／に、向けた気づき／心構え

平成30年7月10日
全国町村議会議長会主催の
広報クリニックに参加



○調査のまとめ
「開かれた議会」「住民と歩む議会」が感じられる編集を心がけ、伝える町政の情報提供をするための紙面内容構成について学習することができた。
早速担当議会広報にも反映させるべく、委員会にて訂正案を提出し、次号の広報より進化させていく。

一般質問 町政を問う！

7人の議員が
一般質問を行いました。

一般質問とは、議員が町長等(執行機関)に対し、町の行政全般について執行状況や将来の方針等を問うものです。

伯耆町では1人60分の制限時間内であれば、質問の回数に制限はありません。
臨場感ある本会議場での傍聴をお待ちしています。

基本ルール

- ・質問要旨は事前に通告
- ・持ち時間は1人60分
- ・町行政に関係があるもの

ページ	主な質問事項	質問議員
9	1.伯耆町における、指定管理者制度は 2.小学校へのプログラミング教育の導入とは	渡部 勇 
10	1.災害時の住民避難の在り方を再検討するべきではないか 仮称「防災座談会」の検討を 2.困っている人を支援したい意思表示の「サポートハートマーク」の導入を	乾 裕 
11	1.産業廃棄物最終処分場の環境保全対策 2.JR岸本駅前待合所の終日開放	森下 克彦 
12	1.豪雨対策 2.旧日光カントリーゴルフ場での太陽光発電事業 ほか	幅田千富美 
13	1.不妊の悩みの解消に向けて	杉本 大介 
14	1.溝口地区のまちづくり	永井 欣也 
15	1.水防計画を見直し、水害への即応体制の拡充を 2.「水害対策用ボート」を配備し、救出や避難などへの対応を ほか	勝部 俊徳 

スマートフォンなど携帯電話で一般質問の映像が流れる
youtubeの二次元バーコードはこちらです。



町政を問う

指定管理者制度か直営か？

町長 現在、指定管理にする考えはない



直営で運営しているゆうあいパル



指定管理者で運営している大山ガーデンプレイス

指定管理者制度は公の施設の管理・運営を株式会社をはじめとした、営利企業、NPO法人、その他の団体に包括的に代行させることができる。



渡部 勇

「民にできることは民で」本町の指定管理者制度は

町長

指定管理者制度も直営もそれぞれメリットがある

渡部 現在運営を委託している事業は。

企画課長 指定管理者に委託している事業は13施設ある。

渡部 現在直営で管理・運営している事業は。

企画課長 「ゆうあいパル(通称)」と「鬼の伝承公園他」の2事業が直営で管理・運営をしている。

渡部 今後、直営から民間へ運営方針の見直しは、またプロの経営診断を受ける考えは。

町長 直営のメリットも考えて直ちに1・2年の内には指定管理にする考えはない。また、経営診断も否定するものではない。

2020年から小学校でプログラミング教育が必修化される、「広報ほろぎ」で概要説明された。

渡部 プログラミング教育とは、また、取り組むねらいは。

教育長 コンピューターを動作させるために命令を与えることをプログラミングと言ひ、それに関する学習のこと。小学校では、「プログラミング的思考」「コンピュータ等を上手に活用すること」「人工知能を使いこなし、人間にしかできない能力を伸ばすこと」をねらいとしている。

渡部 中学校でのプログラミングに関する内容は。

教育次長 「簡単なプログラミングの作成ができる」ことがねらい。今後は、「ネットワークを活用した双方向性のあるプログラミング」が導入される予定。

渡部 各学校における、ICT環境整備などが必要では。

教育長 必要性を精査し優先順位をつけてICT環境整備をしたい。

渡部 導入が決まり教職員員の負担は。

教育長 大きな負担感はないと思う。

町政を問う

防災座談会を実施せよ！

町長 ハザードマップを活用し希望集落から実施検討へ



乾 裕

サポートハートマークの導入を

町長 あいサポート条例を重視したい

乾 西日本豪雨災害の教訓として、倉敷市真備町の小田川の堤防が決壊し逃げ遅れた人々が51人も犠牲となった。

このことは、本町でも起こりうると思われる。最新のハザードマップを活用し住民の中へ出向いて危機意識の醸成を図るため「防災座談会」を取り組む考えはないか。

町長 非常にいいアイデアだと思う。全集落を対象とするのではなく、区長協議会で呼びかけ希望する集落に出かけて行き、自助、共助そして公助という基本的理念の浸透に努力したい。

乾 住民の危機の切迫をいち早く知らせる手段としてサイレンによる警報の初期伝達が有効と考える。町長の所見は。

町長 災害時の情報発信では、個別受信機と屋外のスピーカーは一体となっており最適と考えている。他にも伯耆町有線テレビの画面に緊急情報のL字放送がある。あんしんトリピーメール、さらに公共放送の臨時ニュースなど初動の速報体制は整っているとの認識で、サイレンによる警報発令は考えていない。

個別受信機が聞こえ難い時は総務課までお知らせたい。



屋外スピーカーと個別受信機



防災避難訓練

福祉課長 本年2月1日から県西部総合事務所の福祉課等において配布がスタートしたところである。

本町の実績としては8月末現在で「ヘルプマーク」7名。バッジは1名に配布している。今後もチラシ等で啓発に努めていきたい。

乾 困っている人を支援したい意思表示の「サポートハートマーク」を導入されたい。

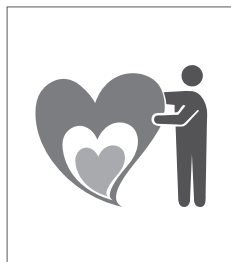
町長 近隣の自治体でもまだ導入されている所はないようだ。

県ではあいサポート条例を施行し県内でも浸透してきた所であり、本町もこれを重視したい。

乾 3月定例会で提案した「ヘルプマーク」についてはどのような対応をされていたか。



ヘルプマーク



サポートハートマーク

町政を問う

産業廃棄物処分場の環境保全対策を

町長 法令の規定を遵守するよう申し入れる



森下 克彦

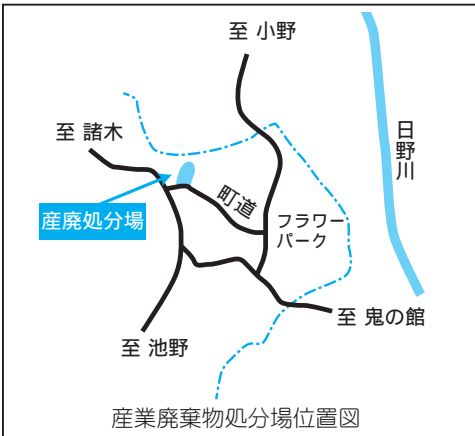
JR岸本駅前待合所の終日開放を

町長 開所時間の拡大で検討する

産業廃棄物処分事業開始か

森下 当町に接する南部町鶴田地区の平成5年に県が許可した産業廃棄物(安定型)処分場について、業者は許可済4品目(廃プラスチック・金属くず・ガラスくず・がれき)にアスベスト含有物を追加して事業開始する動きがある。隣接町としての対応は。

町長 事業者から説明を受け、現地確認した。法令及び平成5年に締結した協定書・覚書の規定を遵守するよう申し入れしている。



森下 埋め立ては行われず、25年も経過した事業である。新たな視点で監視、環境保護体制の対策を行うべきである。

町長 搬入物の監視は第三者で行うことや、客観的な水質検査が行われるよう申し入れられている。
森下 許可権者の県へ、環境保全対策に万全の措置を取るよう申し入れをされたい。

町長 事業未実施のまま許可後25年も経過している。一度、事業開始の動きはリセットされても良いのではないか。

JR岸本駅前待合所の開放

森下 岸本駅前待合所は町民・観光客等のJRやデマンドバス利用者に設置されているが、その開所時間は8時から18時となっている。

JR利用者をみると、早朝、夜間の利用も多い。また、JR岸本駅は町の玄関口でもある。昨冬朝7時頃、風よけ、雨よけ、トイレもない中で到着電車を待つ通学生を見ている。
溝口駅待合所同様終日開所はできないか。

町長 開所時間を拡大する方向で、施設管理を委託しているタクシー業者と協議する。タクシー業者の対応が難しければ、デマンドバス管理者と協議したい。

森下 防犯カメラを設置し、警察パトロール強化を依頼して安全確保を図り、終日開放することはいかがか。

町長 開所時間の拡大を基本的な考えとする。終日開放は考えていない。



岸本駅前待合所

町政を問う

日野川の豪雨対策（上細見地区堤防嵩上げ、樹木伐採・土砂撤去）を急げ!!

町長 上細見地区住民の合意が整い測量に入る予定



日野川河床



幅田千富美

日野川の豪雨対策を急いで!!

幅田 7月の西日本豪雨で、最悪の犠牲者を出した。日野川は大事に至らず胸をなでおろしたが、実

日光ゴルフ場跡地に巨大太陽光発電所

町長

開発協定や法律に基づき運営

情は紙一重だった。様々な角度からの点検、対応と抜本的見直しが必要だが、当面2点の対応が急がれる。

①日野川鬼守橋上流Aコープ、コメリ付近の河川に繁茂している樹木の伐採、土砂の撤去。

②上細見地区の堤防嵩上げ工事促進についての対応は。

企画課長 開発協定では公害防止に誠意をもって対応し、関係地区住民に被害を及ぼさないこと。公害発生恐れがある場合には直ちに措置を講ずる。

地域整備課長 日野川河川改修計画に基づき、法勝寺川、青木橋周辺整備完了後、上細見地区工事に着手の予定。樹木伐採土砂撤出等は、順次予定されている。

また除草作業は除草剤を使用せず、伐採チップの布設で抑制する。

教育長 「要受診」と判断された小学生は全国平均より少ないが、中学生は同様である。その理由の聞き取りはしていないものの、住民検診同様、ねばりつよい働きかけと経済的困難者には、就学援助制度の活用をすすめてい

自然環境保全、地域経済保護の法規制を

幅田 ソーラー・フィールド9合同会社（東京の事業者・資本金1千円）が、パネル4万3千枚を設置、開発予定の巨大太陽光発電所は、自然環境

この事業者は、「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法」の認定を受けており、保守点検、維持管理、処分等の適切な実施遵守をガイドラインとして定め、違反した場合は、国が改善命令や認定取り消しを行うことが可能となっている。

が可能なこと。

町政を問う

不妊の悩みの解消に向けて

町長

社会全体の政治的メッセージが出てくれば 前進する方向になるのではないかと



杉本 大介

相談体制としては、平成28年度に鳥取県が西部地区に設置された、専門の相談窓口（ミオ・ファティリティ・クリニック内）を利用。

健康対策課長 国の制度をベースとして、鳥取県の不妊治療助成に上乗せする方式で助成を行なっている。

町長 治療についての経済的な支援は、いろいろ出てきた。デリケートな問題で、役所としてなかなか踏み込みづらいが、精神的なケアを、どのようにしていくのかという課題が、一番大事。

子供を持ちたい夫婦のために、本町が行なっている支援は。

杉本 子どもを持つことを熱望しながらも、妊娠・出産に恵まれず、不妊治療を受けている方が多くいる。



鳥取県西部不妊専門相談センター
(ミオ・ファティリティ・クリニック内)



ミオ・ファティリティ・クリニック
(米子市車尾南)

妊娠にこれらの事業が結びつければ、不妊検診、出産時の交通費助成、産後ケア事業、様々な子育て支援事業に繋がっていく考え。

不妊(治療)についての経済的・精神的支援と普及啓発を

町長

拡充している相談体制にしっかりと繋げていく 不妊の懸念にいかにも早く気づいてもらうかも大事

町のホームページのなかに、不妊症の疑いがあるのかどうかというセルフチェックシートのリンク

町長 丁寧に相談に乗っていくような相談体制はあるが、まだまだ改善の余地はあると思う。不妊の懸念があるということ

若い世代に対して行なっている普及啓発の方法は。

杉本 不妊の原因の半分は男性側にあるといわれているが、厚生労働省の調査によると、男性側が自ら検査をしたタイミングというのは、相手方の女性の検査が終わってから、というのが47%と、約半数を占めているという。これは、間違つた認識と、検査に抵抗のある男性が一定数以上いるという実情の表れではないかと思う。

「必要に応じて関連付けて扱う程度とする」と定められており、子どもたちは学習をしな

教育長 学習指導要領において、小中学校ではこういった問題については、直接取り扱っていない。高等学校では、妊娠のしやすさを含む男女の生殖にかかる機能については、「必要に応じて関連付けて扱う程度とする」と定められており、子どもたちは学習をしな



セルフチェックシート

クを貼っている。専門の機関に相談するための、一つの入口になることを期待している。

は、効果的なPRの方法があるのかどうか、検討してみたい。

杉本 不妊治療の保険適用化、あるいは無償化について、町長の見解は。

町長 基礎自治体として進めていくのは、若干力不足だと思うが、保険適用化は可能性としてはあり得る。

まず、社会全体の政治的なメッセージが出てくるべき。こういう課題を地方議員などの間で共有していただき、色々なところで影響を与え、その流れが進むのであれば、前進する方向になるのではないかと。

町政を問う

高齢・過疎化が進む地域の課題対応は

町長 地域の話し合いが進むよう誘導する



永井 欣也

集落・公民館整備拡大の方向は

町長 地域性を考慮し負担軽減に知恵を出す

溝口地区のまちづくり

永井 二部、日光を含む溝口地域では高齢化率38%超、独居や高齢者のみの世帯の割合も50%を超えている。見守り体制の整備や地域での支え合い活動が必要と考える。二部、日光地区に配置されている集落支援員からはどのような声が届けられているか。

企画課長

平成29年度にアンケート実施。集落活動の人手不足、農地維持管理、高齢者の交通・買い物など日常生活支援、除雪・空き家等の環境維持などが地域課題。



小さな拠点 山隠れの里

町長 日常生活の課題は地域の話し合いが不可欠。集落、地区協議会などで話し合いが進むよう誘導したい。

永井 溝口地区には集落支援員が置かれていない。広い地域の課題等には、どう対応しているか。

町長 分庁総合窓口課、パートナ―職員、公民館長が対応する。集落で議論を重ね合意形成を図られた課題に、どのようなアプローチが可能か応援していく。

永井 日光地区では、今年度終了予定の事業がある。その検証、対策は。

町長 旧保育所に小さな拠点を設置するなど、地元アイディアで取り組んだ。その頃に意図したニーズなどが変化したか。10月に全事業見直しを行うので、実態に則し決めつけしないで検討する。

永井 デマンドバス事業で住民の生活や活動が守られている。その利用もままならない買い物弱者対応は。

町長 デマンドバス、外出支援サービスは継続する。情報通信の進歩、ネット販売の普及が進んでいる。

高齢者の物品・現金販売には注文・受取りなどで地域の助け合いも。介護・支援を要する方には支援員サービスなど、より実効性のあるもので対応する。

永井 集落公民館は防災・災害時避難の重要施設。高齢者の気軽な利用でさらなる有効活用も。施設整備事業拡充の考えは。



デマンドバス

町長 次の総合計画で財政状況を見ながら検討。防災備蓄、高齢化度合い、介護避難など地域性を考慮、負担軽減になるよう知恵をだしてきた。そのような対応が基本方針。

町政を問う

小・中学校に熱中症対策の冷水機の設置を！

教育長

すべての教室にエアコン配置済みであり、冷水機の積極的な配置までは必要ないものと考えている



熱中症予防へつながる冷水機（県外の小学校）

勝部 本町の小中学校での熱中症対策は、**教育長** 熱中症対策は今後も万全を期したい。**教育次長** 学校のエアコン配備は、非常に効果があったと学校から聞いている。体育館にも温度計で注視。また、個々の児童・生徒の熱中症についての予防自覚と教職員の注意喚起も大切。



勝部 俊徳

勝部 ウォータークーラー（冷水機）を小中学校に設置しないか。**教育長** 熱中症対策については、総合的に判断してゆきたい。冷水機の検討はするが、積極的な配置までは必要ないものと考えている。

勝部 水害時に即応性のある「水防のしおり」の作成しないか。**町長** 町の地域防災計画の中からエキスだけ抜き出したものを時間をもらいながら検討していきたい。**勝部** 町の水防訓練の現状と今後については、**町長** 水防団の力を借り



西部広域配備救助用ボート

ながら区長協議会とも話し合ってゆきたい。**勝部** 想定外の水害予測などに対し、避難計画などへの課題認識は。**町長** 一口で言うのと町としての対応は限られる。避難とか情報伝達は、基礎自治体が力を発揮しなければならぬ。人命に関する避難などの対応が第一である。

水害時に即応性のある「水防のしおり」の作成を
町長 時間をもらいながら検討してゆきたい

水害被災時へのレスキューサポートの
配備を
教育長 目野川は、流速も速く、水防団や職員でのボート対応は課題もある

勝部 町の有線テレビやホームページの災害対応は。**町長** 災害発生後の対応が、かなり難しい。今後の5G（次世代通信システム）時代には、即応性、大容量伝達を工夫してゆくことが必要。**勝部** 水害被災時への「レスキューボート」の配備を。**町長** 水害でボートが力を発揮した事例はある。しかし、日野川は流速も速く、水防団や職員でのボート対応は、課題もある。**勝部** 吉定の水防倉庫を高台に移転しないか。**町長** 移転を前提に機能的でシンプルな計画を考えた。水防倉庫の移設は、なるべく吉定周辺に近いところという観点で検討したい。



自然の中で学び遊ぶ保育園

森のようちえん michikusa

ちびっ子生き生きと保育中



大山キヤラボクの実を取る子

二部地区を拠点に、満3歳から就学前の幼児16人が入所。森や川など豊かな自然の中で、保育が行われている。開所から5年目を迎えた森のようちえん。保育場所の一つ、豪岡山キャンプ場を訪問。代表の新妻敬久さん(子どもは「にいちゃん」と呼ぶ)、園長の新妻麻奈美さん(呼び名は「まなちゃん」)に話を聞いた。

質問 森のようちえん開所のきっかけは？

にいちゃん 県外で幼稚園教諭をしていましたが、数年前に帰省した時に、

自分のふる里の豊かな自然を活かして、学び、遊ばせ、子どもの自主性を育てる保育がしたい思いで立ち上げました。

質問 森のようちえんの保育目標は？

にいちゃん 豊かな自然の中での体験を通じて子供らしさが発揮できるよう心掛けています。



まなちゃんと子どもたち

まなちゃん

この地域の豊かな自然を体験して成長させたいと思っています。

質問 地域との関わりは？

にいちゃん 子どもたちは、二部地区の方と一緒に、秋祭りや田植え、稲刈り、いも堀りなどの行事を楽しんでいます。

質問 今後の思いは？

にいちゃん もっと多くの子どもたちに、この豊かな自然の中での保育に参加していただきたいと思っています。

森のようちえん michikusa 秋祭り

11月17日(土) 9:30~14:30

二部公民館周辺 皆さんお出で下さい。



朝のつどい

編集後記

今年は例年になく週末にかけて台風が襲い、様々なイベントが中止や延期を余儀なくされました。運営側の思いを知ると準備などの時間も労力も、達成感に変わらぬいもどかしさがあつたと思います。

災害対策に関する一般質問も多くなりますが、皆さんの意見を是非とも意見交換の場などで直接伺いたい所存です。議会改革はまだまだ続きます。「見える化」推進に努めてまいります。

【編集】

(長谷川 満)

議会広報常任委員会

委員長 一橋 信介

副委員長 長谷川 満

委員 幸本 元

委員 乾 裕

委員 杉本 大介

委員 森下 克彦

「議会だより」に対するご意見をお待ちしております。

